

# 1. 温水性魚貝類の増養殖対策調査研究費

## 1) 琵琶湖の水ヨシ群落面積 I

西森克浩・栗野圭一・岩崎治臣・山中 治・津村祐司

### 【目的】

ヨシ群落は、魚類の産卵繁殖場や鳥類の営巣の場としての役割、また、水質を浄化する機能を有するなど様々な面で重要視されている。琵琶湖のヨシ群落は、その重要性から過去に数回その面積が算出されてきた。しかし、魚類の産卵繁殖場として重要なのは、ヨシ群落のうち水に浸かっている部分である水ヨシ群落である。我々は水産上重要である水ヨシ群落の植生状況を把握するため今調査を行った。

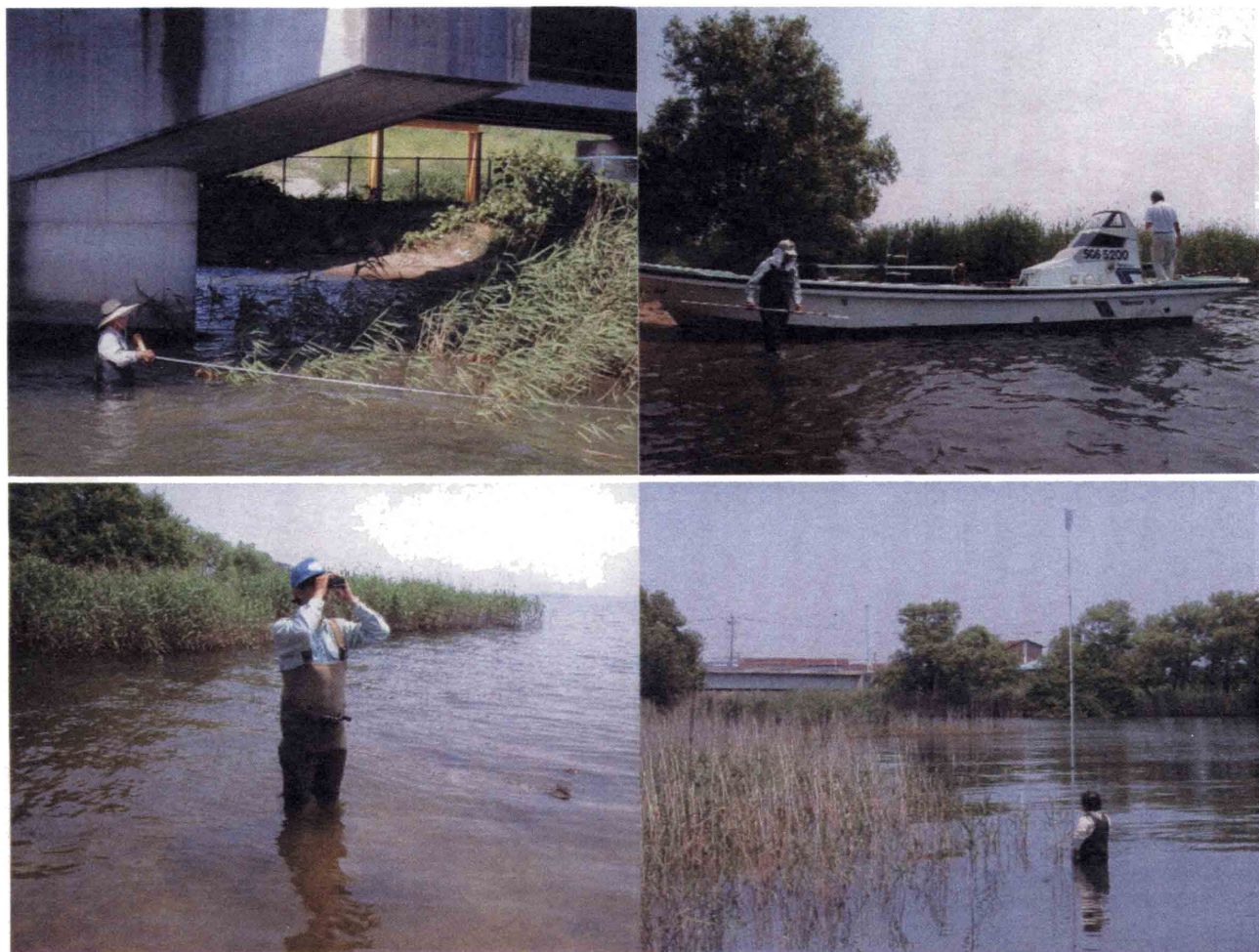
### 【方法】

水ヨシ群落は、琵琶湖基準水位(B.S.L.)± 0cm 以深に生育するヨシ群落とし、その面積を求めた。面積を求めるにあたっての測量には、レーザー距離計と巻尺を用いた(写真)。調査は平成 14 年 4 月 19 日から 7 月 23 日にかけて行った。

### 【結果】

水ヨシ群落の分布とその面積を図 1 に示した(付図参照)。琵琶湖の水ヨシ群落の総面積は 80.4ha であり、その半分が琵琶湖南湖に分布していた(図 1)。そのうち天然ヨシ群落が 71.0ha、造成ヨシ群落が 9.4ha で、造成ヨシ群落の割合は全体の約 12%であった。群落面積が最も大きかったのは、草津市下物町北部から守山市杉江町であり、次いで新旭町針江南部から深溝北部、大津市堅田から雄琴北部の順であった。

今回、ヨシ群落面積を測定したが、ヨシの密度の低いヨシ群落が多いという印象を受けた。今後は、ヨシの密度を測定して、ヨシ群落の質を評価する必要がある。



写真

